

平成 30 年神奈川県  
国家戦略特別区域限定保育士試験問題


保 育 の 心 理 学

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。  
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁。)

(悪い例) … 

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文は、子どもの発達についての考え方に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 発達についての説明は、現在でも遺伝を重視する立場と環境を重視する立場が対立している。
- B 発達に及ぼす遺伝もしくは環境による影響は、生涯にわたって変化することなく一定である。
- C 発達には相対的な順序性があり、複雑性が増し、自己制御能力ならびに象徴・表象能力が高くなる方向に進む。
- D 発達の変化には、量的・連続的とみなせる変化と、質的で不連続とみなせる変化がある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問2 次の文は、自己表現の欲求についての記述である。提唱した人物として正しいものを一つ選びなさい。

人間ならば誰もがもっている欲求を基本的欲求(basic needs)という。そして、基本的欲求は、生理的欲求、心理社会的欲求、精神的欲求に3分され、それらは階層構造をしている。

- 1 ハヴィガースト (Havighurst, R. J.)
- 2 マズロー (Maslow, A. H.)
- 3 エリクソン(Erikson, E. H.)
- 4 フロイト (Freud, S.)
- 5 スキナー (Skinner, B. F.)

問3 次の文は、発達の連続性と就学への支援に関する記述である。この説を提唱した人物として正しいものを一つ選びなさい。

日常生活や遊びなど、子どもたちがさまざまな体験を通して自然に習得する概念を「生活的概念」といい、子ども自身の生活経験のなかから発生することが生活的概念の大きな特徴である。このような生活的概念をもって、子どもたちは学校に入学してくる。学校では、抽象化され、系統だった知識体系である「科学的概念」を学ぶことになる。

- 1 ワロン (Wallon, H.)
- 2 ギブソン (Gibson, J. J.)
- 3 バロン＝コーエン (Baron-Cohen, S.)
- 4 ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.)
- 5 バンデューラ (Bandura, A.)

問4 次の文は、新生児の視覚と聴力に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 新生児の視力は0.02程度であり、その視力で見える距離は20cmほどである。
- B ファンツ (Fantz, R.L.) は、ストレンジ・シチュエーション法を用いて、乳児の図形に対する注視時間の比較を行った。
- C 聴覚は、母親の体内にいるときから発達しており、周りの声や音が聞こえている。
- D 新生児は音に興味を示すとおしゃぶりを吸うという行動特徴から、新生児に様々な声を聞かせたところ、高い声より低い声、そして早口で抑揚のない声を好むことがわかった。

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問5 次の文は、保育における評価方法に関する記述である。この評価方法を表す用語として最も適切なものを一つ選びなさい。

個々の子どもの特性や長所・短所を評価するものやその子どもの進歩や努力を評価するものがあり、子ども一人一人の理解のためや、子どもに自信ややる気をもたせるためには有効な方法である。

- 1 相対評価
- 2 個人内評価
- 3 評定評価
- 4 絶対評価
- 5 個人間評価

問6 次の文は、言葉の発達に関する記述である。( A ) ~ ( D ) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

9か月頃になると、それまでの「おもちゃに注意を向ける」「乳児と養育者が微笑み合う」といった、「自分ともの」「自分と相手」の二者だけの関わりである( A )から、「自分ともの」と人との関係を認識した( B )に変化する。この互いの注意を重ね合わせる( C )が言葉の獲得には重要であり、トマセロ(Tomasello, M.)はこの認識の変化を( D )と呼んだ。

【語群】

ア	9か月革命	イ	三項関係	ウ	三者関係	エ	共同注意
オ	二者関係	カ	9か月変化	キ	二項関係	ク	共鳴動作

(組み合わせ)

- |   | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | オ | ウ | エ | ア |
| 2 | オ | ウ | エ | カ |
| 3 | キ | イ | エ | ア |
| 4 | キ | イ | ク | ア |
| 5 | キ | ウ | ク | カ |

問7 次の文は、ボウルヴィ (Bowlby, J.) が提唱したアタッチメント (愛着) の発達段階についての記述である。A～Dを発達順に並べた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 養育者に対する愛着行動が明確に顕れてくる。養育者に続いて、他の家族もアタッチメント (愛着) の対象としてもつようになり、見知らぬ人に対しては、恐怖や警戒心が強くなる。
- B アタッチメント (愛着) の対象である養育者の動機や行動を洞察・推測できるようになる。それに合わせて自分の行動を調節しながら、協調的にアタッチメント (愛着) を満たそうとする。
- C 養育者の声や顔に敏感に反応するようになるが、その不在に対して泣いたり、不安を示したりすることはまだない。
- D 人を見つめたり微笑んだりする。養育者以外の人に対しても同じような反応をする。

(組み合わせ)

- 1 C→D→A→B
- 2 C→D→B→A
- 3 D→B→C→A
- 4 D→C→A→B
- 5 D→C→B→A

問8 次の文は、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」の4「保育の実施に関して留意すべき事項」に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助すること。
- 2 子どもの健康は、生理的・身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな感性の育ちとがあいまってもたらされることに留意すること。
- 3 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助すること。
- 4 子どもの入所時の保育に当たっては、できるだけ集団の中で対応し、子どもが安定感を得て、次第に保育所の生活になじんでいくようにするとともに、既に入所している子どもに不安や動揺を与えないようにすること。
- 5 子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにすること。

問9 次の文は、人との相互的にかかわりと子どもの発達に関する記述である。( A )～  
( D )にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選  
びなさい。

同じような発達段階にある子ども同士では、ものの所有をめぐるけんかや意見のぶつかりあいといった( A )が生じる。自分の思いやイメージを言葉で十分に伝えることも、我慢したり相手の気持ちを思いやったりすることもまだ難しい段階である。そうした経験を重ねるうちに、3歳くらいになると自分の思いを通すばかりでなく、相手の気持ちにも気づき寄り添う心が芽生え、( B )を促進する好機といえる。認知面では、4歳くらいになると徐々に相手の視点に立ってものごとを見る( C )が進み、( D )も少しずつできるようになっていく。

【語群】

ア	いざこざ	イ	独占	ウ	共感性	エ	協調性
オ	役割意識	カ	脱中心化	キ	向社会的行動	ク	規範的行動

(組み合わせ)

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
|   | A | B | C | D |
| 1 | ア | ウ | オ | ク |
| 2 | ア | ウ | カ | キ |
| 3 | ア | エ | カ | キ |
| 4 | イ | ウ | オ | ク |
| 5 | イ | エ | カ | キ |



問 10 次の文のうち、人間の出生時の特徴に関する記述として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

(a) ローレンツ (Lorenz, K.) は、出生時の発達状態にもとづいて、哺乳類を2種類に大別した。ネズミ、キツネ、イタチなどの哺乳類は、生後しばらく巣にとどまり親の加護を受けてから巣立つツバメやハトのように、(b) 就巢性 (留巢性) に分類される。それに対して、ウマやサルなどの哺乳類や霊長類は、生後すぐに巣立つカモやニワトリのように、(c) 離巢性 に分類される。

このように二分すると、霊長類である人間は (c) 離巢性 に分類されるはずであるが、新生児は自分ではほとんど何もできない状態で生まれてくる。(a) ローレンツ (Lorenz, K.) は、こうした人間の出生時の状態を (d) 生理的遅産 と呼び、(c) 離巢性 に帰するはずの矛盾を解消しようとした。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	○	×	×
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問 11 次の文は、子ども理解における発達への把握に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 保育者は、一般的な子どもの発達の流れを念頭におきながら、発達の道筋は多様であり、すべての面で平均的な発達を示す子どもというのはあまりいないことに留意する。
- B 子どもの行動には、子どもが生来もっている刺激への反応傾向（気質）が関係していることに留意する。
- C 子どもの気持ちを理解しようとするとき、実際に子どもが発した言葉だけでなく、非言語行動に着目しながら、子どもの気持ちを読み取ることは大切である。
- D 保育の場では、他児の存在や他児との関係は重要であり、子どもたちがかかわり合うことで各々に何が育っているのかを、個体能力論的にとらえていく視点が欠かせない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問 12 次の文は、自己主張と自己抑制（自己統制）についての記述である。(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

他者に気持ちや行動を調整される段階から、家庭での親やきょうだいとのかかわり、幼稚園や保育所での保育者や友だちとのかかわりを通して、自分の気持ちや行動を適切に表現したり我慢したりすることができるようになる。その機能のうち、ルールを守ることや、ほしいものを待つことを(a) 自己抑制（自己統制）という。それに対して、(b) 自己主張とは、自分の欲求や意志を他者に対して表現することである。(c) 自己抑制（自己統制）は、3歳から4歳にかけて急激に上昇し、その後は停滞や後退を繰り返す。(d) 自己主張は、3歳から7歳にかけてゆっくりと発達し、停滞や後退は見られない。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	○	○
2	○	○	×	○
3	○	○	×	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問 13 次の文は、基本的な生活習慣に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 子どもの生活は、保育所のなかだけではなく、むしろ家庭での生活時間のほうが長時間に及ぶため、基本的な生活習慣を獲得する機会という点では、保育所よりも家庭で体験する機会のほうが多いものもある。
- 2 出生後しばらくは授乳による栄養摂取が行われるが、5～6か月頃を目安に離乳が始められる。
- 3 新生児期は、1日9時間ほど眠るが、数時間ごとに睡眠と覚醒を繰り返し、日中起きて夜眠るという睡眠リズムはほとんど見られない。
- 4 生活環境は時代によって変化しているため、どのような生活習慣が何歳で形成されるかは時代によって変化し、個人差も大きくみられる。
- 5 一般に、単純で粗い動作でも可能であることから、脱衣のほうが先に発達し、複雑な協応動作を必要とする着衣のほうがあとから発達していく。

問 14 次の文は、子どもを取り巻く環境と人間関係に関する理論についての記述である。  
適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 シュテルン (Stern, W.) は、人の発達が他者との社会的相互作用によってなされると考え、発達の最近接領域という概念を唱えた。
- 2 ジェンセン (Jensen, A.R.) は、遺伝、環境、経験、訓練など、さまざまなものが集まって発達が起こるとする輻輳説を提唱した。
- 3 ピアジェ (Piaget, J.) は、人間の特性をその生活様式や行動、環境との相互作用から明らかにしようとする生態学の立場から、生態学的モデルを提唱した。
- 4 ブロンフェンブレンナー (Bronfenbrenner, U.) は、遺伝は最低限の環境が整わなければ発達に影響できないし、逆にどんなに環境がよくても、発達には遺伝的素質に基づく限界があるとする環境閾値説を唱えた。
- 5 ゲゼル (Gesell, A.L.) は、成熟説を唱え、ある発達を成し遂げるための準備 (レディネス) が自然と整うところまで成熟を待つことが重要であると考えた。

問 15 次の文は、子どもの主体性の形成に関する記述である。自己主張に関する説明として正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 嫌なことははっきりと嫌と言える。
- B 他の子どもの始めた遊びやいたずら、ふざけにつられて一緒になって行う。
- C 遊びたい友だちを自分から誘って遊べる。
- D ちょっと失敗したりうまくいかなかったりすると、すぐあきらめてしまう。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

問 16 次の文は、子どもの遊びに関する記述である。( A ) ~ ( C ) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

( A ) が示した遊びの参加形態によると、子ども同士で一緒になって遊び、物のやりとりや会話をしながら各々が似たような活動をする遊びの形態は( B ) と呼ばれる。遊びの共通の目的やイメージのために子ども同士で話し合ったり、仕事を分担したりするという遊びの形態は ( C ) といい、それぞれが役割や仕事の分担を明確にして遊ぶ形態である。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	パーテン (Parten, M. B.)	平行遊び	協同遊び
2	パーテン (Parten, M. B.)	平行遊び	連合遊び
3	パーテン (Parten, M. B.)	連合遊び	協同遊び
4	ピアジェ (Piaget, J.)	平行遊び	連合遊び
5	ピアジェ (Piaget, J.)	連合遊び	協同遊び

問 17 次の文は、障害に関する記述である。適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 視覚障害には、視力障害、視野障害、色覚障害などの種類があるが、視力障害は、生活や学習における障害の程度から「遠視」と「近視」に分かれる。
- 2 聴覚障害において、中耳、内耳の伝音系に障害がある場合を伝音難聴という。
- 3 肢体不自由の起因疾患には、脳に関するもの、脊髄に関するもの、末梢神経に関するもの、筋肉に関するもの、骨や関節に関するものがある。
- 4 『DSM-5 (精神疾患の診断・統計マニュアル第5版)』では、注意欠陥・多動性障害 (Attention-Deficit Hyperactivity Disorder : ADHD) は、注意を持続することができない不注意という状態と、じっとしてられない多動性の状態の有無によって診断され、衝動性については診断基準に含まれなくなった。
- 5 学習障害 (Learning Disorder : LD) は、全般的な知的発達の遅れを有し、かつ、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すさまざまな状態と定義される。

問 18 次の文は、「発達障害者支援法」に関する記述である。不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 市町村は、児童に発達障害の疑いがある場合には当該児童の保護者に対し、継続的な相談、情報の提供及び助言を行うよう努めるものとした。
- 2 発達障害児が発達障害児でない児童と別に教育を受けられるように配慮することとした。
- 3 個人情報の保護に十分配慮しつつ、福祉及び教育に関する業務を行う関係機関及び民間団体が医療、保健、労働等に関する業務を行う関係機関及び民間団体と連携を図りつつ行う発達障害者の支援に資する情報の共有を促進するため必要な措置を講じるものとした。
- 4 国及び都道府県は、個々の発達障害者の特性に応じた適切な就労の機会の確保、就労の定着のための支援その他の必要な支援に努めなければならないこととした。
- 5 発達障害者に対する地域での生活支援について、その性別、年齢、障害の状態及び生活の実態に応じて行うこととした。

問 19 次の文は、自閉症スペクトラム障害の特徴に関する記述である。( A ) と ( B ) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

自閉症スペクトラム障害のある子どもの、他者とのかかわりの特異性・困難性の特徴は3つのタイプに分類される。( A ) は、人とかかわること求めず、一人であることが多く、かかわりは要求などの最小限のものである。( B ) は、自分からかかわることができず、他者からはたらきかけに対しては明確な拒否を示さず、ストレスを蓄積することが多い。積極型は、他者に積極的にかかわるが、そのかかわり方が不適切でトラブルの原因になることが多い。

(組み合わせ)

- |   | A   | B   |
|---|-----|-----|
| 1 | 回避型 | 葛藤型 |
| 2 | 回避型 | 受動型 |
| 3 | 孤立型 | 受動型 |
| 4 | 孤立型 | 回避型 |
| 5 | 孤立型 | 拒否型 |

問 20 次の文は、障害のある子どもの保育に関する記述である。専門機関等との連携について適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 児童発達支援センター等で行っている保育所への訪問支援を活用する。
- B 保護者の了解を得たうえで、保育所内での子どもの様子や保育所内で行っている配慮や取り組みなどを小学校に伝える。
- C 子どもが医療機関を受診している場合には、障害や疾病の状態、服薬管理、発作時の対応方法等について、保護者を通じて医療機関と共有しておく。
- D 子どもが療育を受けている専門機関と環境構成や支援方法等をすり合わせ、支援の一貫性を確保する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○